



小学生の時から「芸文生」と関わる

小学生の時に、クリエイティブ・たかおかという取り組みで、美術の授業の中で制作したものを高岡市美術館で展示される機会がありました。当時、自分では絵を描くことやモノづくりが得意とは言えませんでした。私の制作物を先生が選んでくれたことで「私の作ったものが選んでもらえた」と、嬉しかったことを覚えています。展示の時に、富山大学芸術文化学部の学生の作品も展示されていました。私の住んでいる地域でもシェアハウスに住んでいる学生がワークショップをするなど、地域での活動に触れる機会が多く、幼い頃から「芸文生」は私にとって身近な存在でした。

高校入学から富山大学入学を目標に

決して芸術系が得意とは自覚していませんでしたが、ダンスや音楽など「自己表現すること」が好きでした。デッサンやモノづくりであれば努力することが苦ではなかったと感じました。高校はデザイン・絵画科に進み、その時から富山大学の芸術文化学部で学ぶことを目指していました。高校の先生にコツコツと自分で描いたものをみてもらい、画塾にも通いました。早くに目標設定して努力を重ね、富山大学芸術文化学部に進学することを決めることが出来ました。

自信につなげるために行動

大学に入学し、授業と課外活動どちらも精力的に活動してきました。高校までは自信がなくて、やってみたいことに手を挙げることに躊躇することがありました。あとになって後悔したくない。大学では、経験を積んで成長したいと考えました。富山大学の特徴でもある地域に根差した活動として、1年次のプロジェクト授業で「オープンエアミュージアムin環水公園」、2年次は「ミラレ金屋町」「市場街」に参加し、多くのプロジェクトに自ら希望し、経験を積んでいます。

目標だった大学祭のビジュアル制作

1年次から高岡キャンパスの学生会に所属し、大学祭の運営に関わっていました。その時から、全学の大学祭のメインビジュアル制作に挑戦したいと思っていました。2年次からは渡邊雅志准教授のゼミに所属し、富山マラソンの完走タオルのデザインやワークショップの企画などゼミで受ける案件に取り組んできました。同時に、2025年の大学祭のメインビジュアル制作に取り組み、選ばれました。同時進行で複数のプロジェクトを進めることが、自分にとっては良い刺激になっています。



高校の後輩たちへ

表現の世界を目指す人が多くいると思います。高校時代に得られるものや、そこで過ごす時間の中には、その時でしか体験できないこと、感じ取れないことがたくさんあります。今だからこそ得られるものをしっかり吸収しながら、頑張ってください。

お世話になった高校の先生へ

高校時代にお世話になった先生方のことを、心から尊敬しています。当時の私に真剣に向き合い、信じて応援してくださったことに、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも当時の想いを忘れず、なりたい姿になれるよう追及し続けます。